

B-12 外気中における布損傷について —大気汚染度差による布への影響(II)—

福岡教育大 高野 延子
北九州市柳西中 ○久保田圭子

1. 外気中における布損傷について—大気汚染度差による布への影響(I)—につづいておこなったもので、大気汚染度大の地域としてえらんだ枝光小学校は、冬期北西の季節風が強く調査実験場所の北西方向に工業が密集しているため、ことに大気汚染度は大となると考えられるので、期間は1カ月でも夏季のものと冬季のものとは、どのように異なるかを調べる目的で本実験をおこなった。

2. 調査実験場所、材料共に、外気中における布損傷について—大気汚染度差による布への影響(I)—に同じ。

試料のつくり方、期間：夏季1カ月として昭年44年6月1日～6月30日、冬季昭和45年1月5日～2月4日、他はいずれも外気中における布損傷について—大気汚染度差による布への影響(I)—に同じ

3. 光電反射率：両地区間に差があった。

破裂強度：両地区間に差があった。

繊維種別：ポリエステル系のものが強さには耐えるようである。

期間は同じでも、冬季は両地区間の汚染度、強さの差は大きい。